

## 家庭科 指導方法の課題分析と授業改善策

	ア 指導方法の課題分析	イ 具体的な授業改善策	ウ 補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	○教科に対して、苦手意識がある生徒がいるので、誰もが積極的に取り組める授業展開を考える。	○授業の導入時、本時の内容に関連する誰もが答えられる発問を用意し、自分の考えを発表できる（書ける）ようにする。説明をするときのスピードはゆっくり、平易な言葉を用いるようにする。 ○授業で用いるワークシートは1時間に1枚とし、授業の流れが理解しやすいようにする。また教科書の表題とワークシートの表題を同じにする。	○その時間に学習したことに関する、簡単な課題をワークシートの中に用意する。また長期休業中に取り組みやすい課題を提示する。
第二学年	○ミシンを使った製作活動を行うので、苦手意識がある生徒の進捗管理、また反対に進みが早く、課題が予定より前に終わってしまう生徒への課題提示が必要である。	○チェック表を作り、全生徒の進捗を把握する。チェックを受けに来たときに、声をかけ、やる気をもたせる。 ○説明ではプリント、黒板、模型を用意し、後から見直せるようにする。ミシンで製作するものとは別に、手縫いで製作する課題を用意し、進捗差に応じる。	○製作活動で遅れが出た生徒は、放課後などを使って補充していく。
第三学年	○苦手意識がある生徒に対して興味をもたせる工夫が必要である。  ○誰もが意欲的に取り組み、「思考力・判断力・表現力」を身に付けられる指導の工夫が必要である。	○学習内容が難しい「消費生活」のところでは、生徒が興味をもてる教材を用意し、自分の考えをもてるようにする。また製作活動では、机間指導を常に行い、1時間の中で全員に声をかけるようにする。 ○発問のときに、まず自分の考えを記入し、その後周りの人と意見交換する時間をもつことで、深めていく。	○学習内容に即した簡単な課題を提示することで、授業以外でも教科書を開く機会を設け、学習内容に興味、関心をもたせる。